

15年のあゆみ



市制発足

近隣の八尾、竜華、久宝寺、大正、西郡の町村が合併して昭和23年4月八尾市が発足した。（写真は初の市議会）



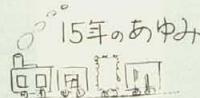
八尾警察署完成

市制発足と同時に市の自治体警察署が創設され、翌年4月庁舎が建設された。



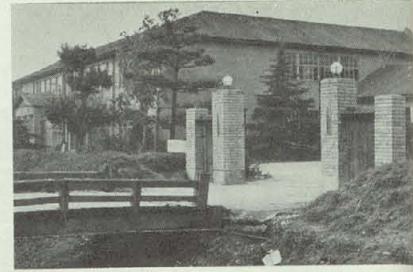
市民病院開院

昭和25年2月、日本医療団八尾病院を母体に市立八尾市民病院が開院。29年5月八尾市立病院と改称。



高松宮殿下來市

昭和25年5月、八尾市を視察のため高松宮殿下が来市、市内の各施設をみてまわられた。



高松宮妃
昭和35年
問され、
察された



市庁舎落成

昭和26年3月、鉄筋コンクリート三階延長494坪、工費約2千4百万円で市の庁舎が落成。



信貴山ケーブル復旧

昭和32年3月、戦時中に解体された信貴山ケーブルが復興され、信貴山参詣の便宜が復活。



志紀町合併

昭和32年4月、南河内郡志紀町を編入合併、市域41.05平方km、人口108,409となる。



市制10周年
昭和34年
挙行、
大な記念

第2室戸
第2室
甚大な災
請した。

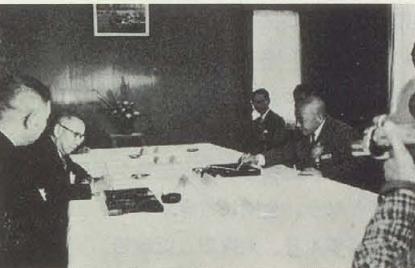
15年のあゆみ



15年のあゆみ

高松宮妃殿下來市

昭和33年2月、高松宮妃殿下が市を訪問され、市立清友高校や市内の工場を視察された。



初の名誉市民章

前脇田市長の功績をたゝえ、名誉市民に推举、昭和38年11月、当市初の名誉市民章を贈った。



大阪市と行政協定

生活、経済、文化の一体化した当市と大阪市との共存共栄のため昭和36年5月両市の行政協定を結ぶ。



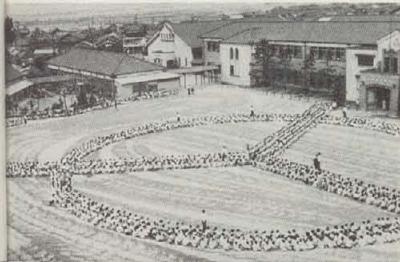
青少年いこいの家完成

行政協定事業の一つとして昭和38年11月青少年いこいの家が完成。同月26日開館式を行なった。



市政15周年記念

昭和38年4月、市政15周年記念式典を挙行。この日を記念して、行政協定を結んだ大阪市の動物園にシャモを贈る。



動く府庁開催

佐藤大阪府知事を囲む懇談会と府サービスカーによる各種の出張相談による「動く府庁」が、12月5日に開催された。



第2室戸台風襲来

第2室戸台風の襲来によって、当市は甚大な災害をうけ、自衛隊の出動をも要請した。



大橋市長初登庁

昭和38年5月、市制発足以来4期市長職にあった脇田幾松氏に代って大橋清治新市長初登庁。



15年のあゆみ

15年のあゆみ

昭和23年4月、八尾町ほか4町村を合併して面積19平方キロ、人口64,000人余で発足しました。

八尾市は、その後、順次隣接の三野郷村の一部、南高安町ほか2村、さらに志紀町を合併して、今では面積41平方キロ、人口145,000人を数える府下第5位の中堅都市として躍進してきました。

この間、6・3制義務教育施設の整備拡充、市立病院の建設、上水道の敷設にわたる拡張、長瀬川の大改修、工場誘致、衛生処理場の建設等の新市建設設計画は、苦しい財政難を克服し、至難な建全財政を堅持しつつ、着々と進められてきました。

また、街づくりの基本課題である町名地番の改正、都市計画街路の新設、道路網の整備、都市排水、じんあい処

理事事業の推進なども、いろいろな困難をのりこえて、明るく清潔な住みよい八尾市にするため堅実に進められています。

更に近年、広域行政の必要性が目下の急務となり、全国にさきがけて、去る昭和36年4月、大阪市と行政協力協定を締結し、両市民の日常生活の向上と福祉増進のための所期の協力事業が円滑に推進され多くの成果をあげてきました。

このようにして、市政施行当時の田園都市は、15年間のたゆまぬ努力と市民各位の協力によって現在「住宅と観光と工場」をあわせもつ近代都市として成長しましたが、今後は大大阪市とともに、市行政各般を通じての開発が要望され、八尾市は今その基本的な諸施策と既成地域の緊急整備を市政の根幹とする諸事業を進めています。

一年 表一

昭和 23年 4月	市制施行（八尾町等4町村合併）
24年 5月	八尾警察署完成
6月	亀井保育所開所
6月	農業会館開館
12月	竹渕小学校開校
25年 2月	市民病院開院
5月	高松宮殿下御来市
7月	大阪市バス乗入れ
9月	ジェーン台風来襲
26年 2月	市庁舎落成 公民館開館
6月	自治振興委員会結成
9月	西郷保育所開所
27年 2月	市営住宅第一回30戸建設
10月	市制5周年記念式典
28年 3月	八尾御坊自然崩壊
5月	養老院完成
9月	府道大阪八尾線開通
29年 4月	緊縮措置条例制定
7月	飛行場農地開放運動始まる
30年 4月	3ヶ町村合併
11月	合併による助役2名
31年 3月	八尾飛行場、民間空港として発足
9月	清友学園市に移管
32年 2月	長瀬川改修に着手
3月	信貴山ケーブル復旧
4月	志紀町合併
6月	電話自動式に切替
8月	高安水源地完成
33年 1月	上水道第2回拡張工事に着手
2月	高松宮妃殿下御来市
5月	国鉄バス運行
34年 6月	国民健康保険制度を実施
	水道第2回拡張工事完成
	市制10周年記念式典
11月	国民年金制度実施
35年 7月	労働会館落成式
8月	高安山の展望台完成
12月	下水道事業起工式
36年 5月	大阪市と行政協定
8月	市立病院新築完成
10月	福祉社会館完成
37年 1月	全市給水完成
7月	脇田市長歐米視察
9月	大阪市民火災共済制度に加入
11月	衛生処理場竣工式
38年 1月	隣保館落成
2月	長瀬川竣工式

庁舎正面





懇談する大橋市長と中馬大阪市長

大阪市との行政協力協定

現代の市民生活は、その経済活動も社会活動も、単に一つの市町村の区域にとどまらず、市町村の境界をこえて広く且つ自由に行なわれています。特に大都市周辺の衛星都市である八尾市の場合はその傾向が非常に強いわけです。

一方、行政は、市町村単位で行なわれているため、限られた自治体財政の中で、それぞれ個々の計画を実施している現状では、日々の市民各位の要望にこたえ、さらに将来の発展のため誤りない施策をたててゆくことができなくなっていました。

こうした理由が広域行政の必要とする出発点であり、八尾市は、全国にさきがけて、去る、昭和36年4月大阪市と行政協力協定を締結し、広域行政のモデルケースとして各方面から多大の関心を集めています。

このように大阪・八尾両市行政協力協定の目的は、お互いに行政上の協力をして大阪都市圏の開発に努め、市域をこえた広域的視野にたって産業、文化、交通その他都市施設の合理的配置を計画することによって、地域住民の福祉増進をはかり両市のよりよい繁栄と発展に寄与することですが、協定締結当初、協議決定された、協力事業16

項目は次のとおりです。これらの共同課題を早く強力に推進するため両市共同の協議会が2カ月に1度づつ開催され、着々と協力事業の実現をみています。

協議会委員—38.8.24—

会長 大島大阪市助役

副会長 大橋八尾市長

〔八尾市側委員〕

隅田栄、近沢武茂、大川末治郎、平田庄治、森本義雄、阿尾彰、長沢豊二、山脇悦司、真田勲、熊倉奎二（以上市議）、大橋清治（市長）、古藤敏夫（助役）

〔大阪市側委員〕

北山勇、黒田広一、長田義一、樋口治一、吉宗貞之、西風金之助、隅野源治郎、中田捨次郎、北側義一、板並丈夫（以上市議）、大島清（助役）、河村重俊

15年のあゆみ

行政協力に関する 両市の共同課題

昭36.9.1 第2回大阪八尾両市行政協力協議会決定事項

1. 市営バス及地下鉄の延長について
—昭38.7.1 阿倍野—布施—八尾線開通
2. じんあい処理場の設置について
—八尾市上代地区に大阪市営じんあい焼却場建設準備中
3. 上代開発について
—開発案検討中
4. 住宅政策について
5. 高安山開発について
—昭38.11.26八尾市 恩智に大阪市立大畑山会館（勤労青少年いこいの家）建設開館
6. 水道給水の協力について
—昭37.8.24 1日3500屯特別給水
7. 久宝寺緑地について
8. 営造物、施設の共同利用について
—昭37.4.1 実施
9. 消防行政の協力について
—昭37.1.1 相互応援協定締結
10. 病院の運営について
11. 学校施設について
12. 両市境界道路について
—関係道路3線現在整備中
13. 河川問題について
—平野川改修検討中
14. 八尾空港について
15. 墓地公園について
16. 大阪市内工場の分散について

大阪市立大畑山会館



八尾市のおいたち

沿革

八尾の地名伝説として、八つ尾の鶯の話があります。これはかなり古くからあったとみえ、天文23年（1554）三条西条卿が河内国八尾木の金剛蓮華寺に参詣した際に、この話をきいて吉野詣記に記しています。八尾の市名は旧八尾町を引きついだものですが、むかし八尾村の南部は、かつて矢作部の本店であって、矢は朝にさして背を負うところから、これが転訛して「やお」となり、「八尾」の字があてられたものです。

当市の市域は、上古時代から生産、文化の発達したところで「西の京」と呼ばれたこともありました。明治維新後は、大阪府司農局河内県、堺県などの管轄をへて大阪府に入れられ、明治22年以後、各字がそれぞれ町村となりました。昭和23年4月1日、これら隣接の八尾町、竜華町、久宝寺村、西郡村の5町村が合併して、面積19.29平方キロ、人口64,431の八尾市が誕生しました。当時の人口規模は府下15都市の中で第8位でした。

その後、市勢の伸びとともに人口も7万余に達し、同30年、河内市の誕生にあたって旧三野郷村の南部と上之島の両地区が、その地理的条件から同年2月1日当市に編入されました。

ついで4月3日、地理的、歴史的に密接な関係にある南高安町、高安村、曜川村の1町2村を合併人口94,863、面積37.45平方キロの中堅都市となりました。昭和32年4月1日には南河内郡志紀町が編入されて、人口108,409、面積41.05平方キロとなり、名実ともに中堅都市としての地盤を築きました。

そして、この数年間、年ごとに人口が増え、38年4月現在では、138,536と府下27都市の第6位を占める市とし

て加速度的な成長を続けています。

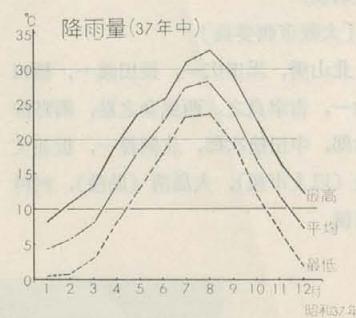
位置と地形

当市は大阪府の東部にあり、南西部は大阪市に接し、東は信貴生駒連峯を境として奈良県に、北は布施市、河内市、枚岡市に、そして南は大和川を境に松原市、柏原市、美陵町に接しています。

地形は変化が少なく、平地は海拔10メートルで、山地は10メートルにすぎません。南端には大和川が東から西へ流れ、長瀬川、楠根川、玉串川、恩智川の4つの川が流れています。

気候

当市は大阪平野の東部に位置し東に信貴生駒の連峰があって、四季の風雨が調節され、気温は温和で、年間の平均気温は16度内外です。風向きは、最も多いのが北か北東の風、次いで西風が多く、風速は3秒前後です。雨量は毎月の平均が100ミリ前後、湿度は70%程度です。



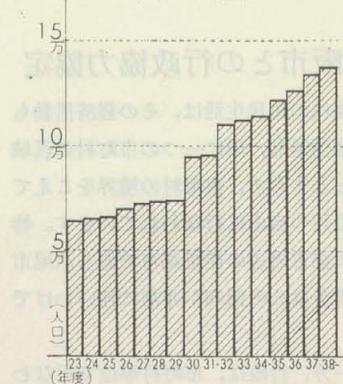
人口

人口が13万を突破したのは37年3月、131,260人となり、その後1年間に4.8%の増加をみています。注目されるのは、市外から転入していく人口増加（社会増）で、出生と死亡との差引き

（自然増）を大きく上回り、自然増の2,013（1.5%）に対し、社会増の4,395（3.3%）という数字です。これは、工場や住宅の誘致によるものとみられ、男2.8%女2.5%の増加率をみて、社会増による産業人口の増加がうかがわれます。

過去5年間の人口増加率をみると、大阪府下の平均19%に比べ23%と上回り、このところ、急テンポに人口が増加しています。

人口の推移





機械化した事務

出生から死亡まで、市役所は住民の権利を守り、そして共同社会の秩序を保つための、あらゆる仕事を受けもっています。

市は、この仕事が、できるだけ滞りなく、正確に、能率的に行なえるよう、事務の分担を定め、常に事務の改良に努めています。

市の機能は住民の福祉を図ることにあり、社会の発展、文化の向上につれて、今後ますます分化が進められます。昨年8月の機構改革によって、部制が設けられ、市長事務局は5部16課1所1室からなり、市の機構はそのほか、5局1署1病院からなっています。職員は約1,200人にのぼります。

市民の応接

市役所を訪問しても、自分の用事をどこで足せばよいか分からない人たちのために、当市では、早くから市民相談室を設け、こゝを市民の応接室として、あらゆる用件をうかがい、苦情の処理や手続きの指導を行ってきました。こうして、来訪される市民の便宜を計るだけでなく、各職場の職員が事務に専念できるようにし、事務の能率化を助けています。

1本化した窓口

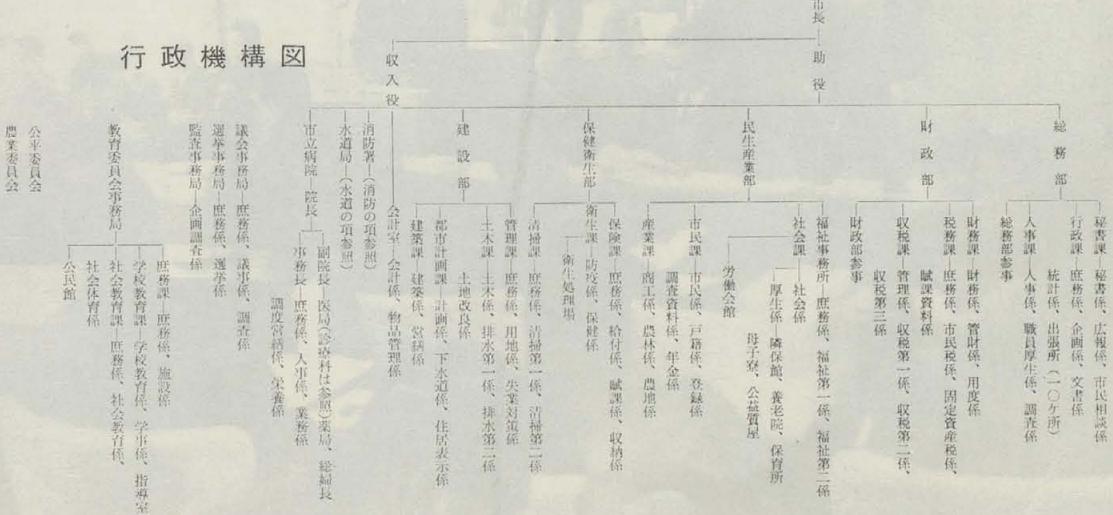
市民課の窓口も、1箇所で早く正確に用が足せるようにしました。当市に転居してきた人は、いろいろと住民と

しての届をしなければなりませんが、市民課の一つの窓口で、全部の届ができるようになっています。

機械化した事務

いろいろな税金や給与の計算をしたり表にまとめる事務は各課が別個にするよりも、一箇所に集中する方が能率的です。このため設けられた計算室では、各種の計算事務のほかに、宛名書や、印刷事務の一切を引き受けています。設備されている機械は、オフセット印刷機、同製版機、臘写原紙自動製版機、臘写輪転機、印刷機、リコピーマシン、宛名印刷機、会計機、各種計算機、タイプライターなど10数台です。

行政機構図



行政のしくみ

議会のうごき

議 会

市の行政は、すべて法（条例）に基づいて行なわれます。その法を定めるところが議決機関としての市議会です。

現在、議会は議員36人で構成され年4回の定例会のほか臨時議会が開かれます。また議会には次のような常任委員会、特別委員会があり、議会から付託された事項やその部門の事務を調査したり審査します。

常任委員会

総務委員会

建設委員会

文教・産業委員会

厚生委員会

特別委員会

広域行政調査特別委員会

当市は、大阪市と行政協力に関する協定を結び、着々と成果をおさめています。

ですが、対大阪市との関係だけにとらわれず、隣接都市との間にも互いに行政上の協力が出来るよう、当市の現状と将来のあり方について必要な調査を行なっています。

交通対策特別委員会

公（大阪市）、私営バスの増発と路線の新設など交通網の充実をはじめ、国鉄関西線各駅の整備、城東貨物線の電化と客車運行促進について関係方面への運動をつづけるとともに、市民生活をおびやかす交通事故をなくすよう努力しています。

ガス電話対策特別委員会

市内ガス未設地区へのガス供給促進についてガス会社と交渉するとともに、電気公社に対しては、大阪市など隣接都市間の通話料金隔差をなくすよう強い要望をしています。



議長
畠中 正一



副議長
小池十太郎

歴代の議長

初代 辻村 乙三

2 " 同

3 " 今村 安司

4 " 石田 善硯

5 " 同

6 " 羽多野 与久

7 " 谷口 安吉

8 " 同

9 " 羽多野 与久

10 " 同

11 " 谷口 安吉

12 " 松村 富藏

13 " 羽多野 与久

14 " 谷口 安吉

15 " 畠中 正一



市の財政

市税の順調な伸びを中心としてこの数年市の財政規模は次第にふくれてきましたが、38年度では近年のような大巾な市税の増収が期待できないうえに、支出面で、職員給与費の急増による人件費の増加、生活保護基準率の引上げに伴なう扶助費や、公債費など義務的経常経費が大きくなり、税の増収額を上回る状況となりました。また事業費は36年度から継続されているし尿処理場、不良住宅改良事業、公共下水道事業、そして都市排水施設の整備、文教施設の整備一ヵ年でも特別教室など公共施設整備に多額の投資が行なわれているので、今後の財政運営は思いきった工夫改善を要し、事務の簡素化、消費的経費の節約が当面の努力目標となっています。

一般会計の推移

35年度から37年度までの一般会計決算額の移りかわりと38年度予算額は次のとおりで、各年度とも黒字財政を保ってきています。

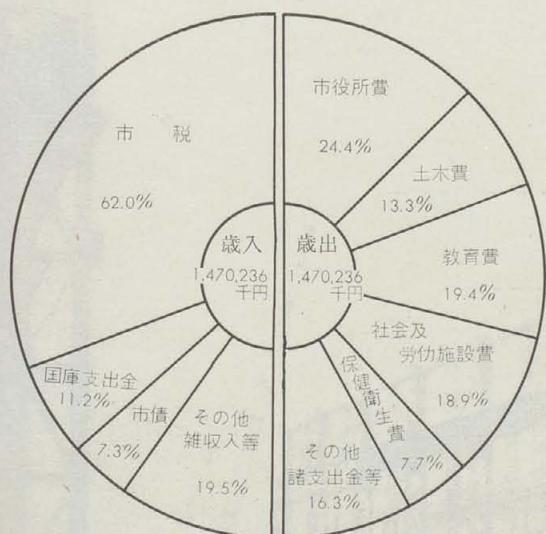
年度	
35	899,290千円
	840,849千円
36	1,230,203千円
	1,162,358千円
37	1,601,514千円
	1,566,841千円
38	1,470,236千円（予算）

特別会計

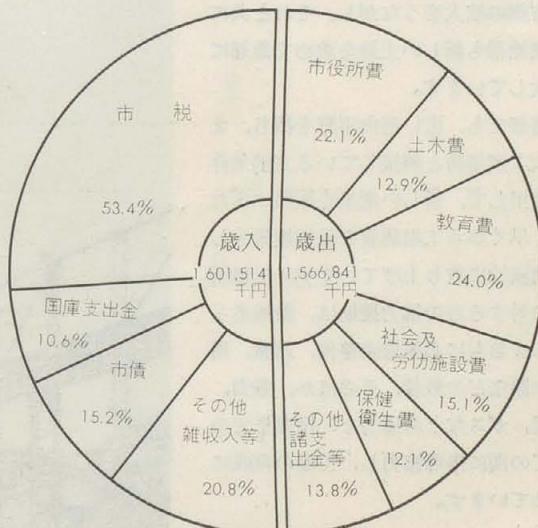
特別会計には次のものがあります
(数字は37年度決算支出済額)

	千円
病院事業費	336,590
国民健康保険事業費	137,607
競輪事業費	380,127
中小企業融資事業費	32,621
国民年金事業費	17,003
上代開発事業費	208,368
水道事業費	240,614

38年度予算(一般会計)



37年度決算(一般会計)



市税

昭和37年度の市税収入総額は、8億5千500万円で、市民1人が約6千円の税金を納めた勘定になります。またこの収入総額は36年度より1億6千800万円(12.4%)の増収で、税の各種目とも36年度を上回っています。

なかでも、市民税は好景気の影響から市民所得が増加しているため著しい伸びを示し、1億400万円(14.5%)の増収となり、これは全増収分の6割以上にものぼります。このほか、固定資産税5千600万円(12.4%)、軽自動車税290万円(13.9%)と増加していますが、市税の主要財源は、なんといっても市民税と固定資産税でこの両税で全体の72.5%を占めています。

自主納税制度

昭和38年6月1日から、これまで戸別訪問による徴税を廃止して自主納税制度に切り替えました。これは納税の公平と徴税経費の節約を目的とした制度で、納税者の協力によって徴収率も順調にのびてきています。

のびる産業

工 産 業

市政発足当初は当市の工業といえば、まず第一にブラシがとり上げられました。このことで分るように、当時の工業といえば撚糸、織維、製油、ブラシ、花緒など特産工業を中心としたもので、規模も零細で家内工業的なものがほとんどでした。

そのご、隣接する大工業都市大阪の飛躍的な発展とともに、当市もその影響を強く受け、その工業地帯の拡大とともに、今まであまり見られなかったような電気、機械、プラスチック、鉄鋼製品などの軽、化学工業の工場が増加し、しだいにその性格を変えようとしています。

特に、当市は広い河内平野を有する上に大阪、堺両大工業地を間近にひかえている立地条件から、こんご、地元工業の充実とともに、工場誘致による新しい企業の開発により、大阪東部ブロックを代表する中工業地帯へと変りつつあります。

工 場 誘 致

日に日に、進歩発展する経済成長は都市圏の拡大をうながし、それと共に工業地帯も新しい土地を求めて急速に拡大しています。

当市でも、広い河内平野を持ち、また大工業地帯と隣接している立地条件を利用して、新しい産業を振興するため、早くから工場誘致を重要施策として積極的に取り上げています。工場誘致に対する市の協力援助は、敷地あっせんをおもに必要施設整備、道路、用排水路などの敷設、そのほか、電力、電話、ガスなどの協力と、操業までの全ての面に指導協力し、工場の育成に努めています。

昭和30年以降の誘致工場は次の通りです。

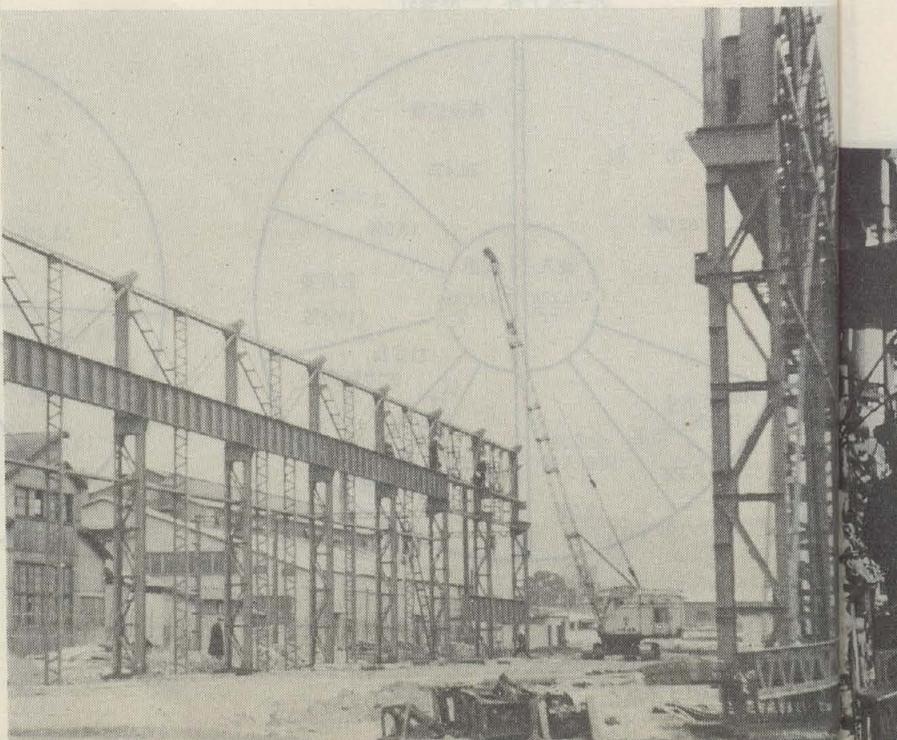
明治乳業、コクヨ、大紀アルミ、マルイ金属、釤安鉄工所、下平電機、西沢特殊ミシン、早川電機、星電器、日東紙器、日本電炉、山本鉄工所、鈴見電機、前田産業、東洋鉄線、熊城鋳造所、木村工機、丸誠産業、合同インキ、南金型、日興磨棒綱、草川鉄工、エスピ食品、佐野プリキ印刷、山本化學合成、二藤商店、光印刷、光洋機械平工業、内外炉工業、野金属。

市 内 の 工 業

事 業 所 数	従業員数	年間生産(販売)額
846	19,667	49,216,610(千円)

業 種	件数	割合	年間生産額(千円)
織維(撚糸含む)	101	11%	4,652,700
機 械	111	18	4,452,780
衣服その他の織維製品(花緒含む)	52	6.1	528,680
金 属 製 品	83	9.7	7,486,980
紙 加 工 品	60	7	4,150,020
家 具 木 製 品	46	5.4	474,290
電 気 輸 送 器 具	50	7.9	3,428,880
食 料 品	33	3.7	3,485,480
化 学	27	3.1	4,619,070
鉄 鋼 非 鉄 金 属	27	3.1	7,974,090
窯 業 土 石 製 品	18	2.9	2,163,900
出 版	10	1.1	181,810
そ の 他(刷子含む)	228	26	5,617,930
計	846	100%	49,216,610

誘致した建設中の工場群



商業

その昔、陸路には八尾街道、奈良街道が、水路は大和川、平野川など交通運送の便がよく地方物産の集散地として営んで来ましたが、大商都大阪を控えているため、その影響が大きく商圈が狭く大部分が零細企業となっています。

そのため商業の発展には農工との総合的な振興をはかって、商業経営の合理化と商店街の育成強化と、中小企業の融資制度を円滑に運用することによって大きな成果をおさめています。

現在市内の商店の数は2,027（法人127、個人1,900）、従業員4,732人年間販売額15,287,240千円となっています。

またこれらの商店の中には11の商店街があり、それぞれ商店会を組織し商店連合会をつくり18の小売市場も市場連合会を結成しあわせへの共存共栄の体制をとっています。

また、市内の商店59では専門店会を結成し、クーポン制を行ない売上げの増大をはかるなど時代の進展に即応するよう努めています。



商工会議所

業種と商業団体

業種	
一般卸売業	100
織物衣服業	239
飲食品小売業	962
飲食店	140
自転車荷車小売業	39
家具、建具、什器小売業	160
その他の小売業	387
計	2,027

商業団体	
八尾市商店会連合会	
八尾市小売市場連合会	
八尾市商店会連合会	

発展する商店街



商工会議所

会議所は、市内商工業の振興発展のために、経営者を対象として、金融、貿易、税務、経理、労務、社会保険、特許、技術、経営、取引、経営診断など、各部門にわたって総合的な指導に努め、商工業者の代表機関として積極的に事業をすゝめています。

また、昭和35年8月から商工会法の制定に伴って、当所の会員以外の小規模事業のため、経営改善の指導、事業の育成指導に努め、特に、巡回相談指導は非常に好評をうけています。

このほか、珠算、簿記、計算尺の能力検定や事務職員検定などの試験を行なって、商業技術の普及をはかり、多数の優秀な技能者を出しています。

設立……昭和24年4月21日

会員……700人

役員……50人

会頭……高木金一

関係団体の代表者

八尾市珠算協会	岡塙登代一
八尾ライオンズC	早川 真吉
八尾ロータリーC	中村 忠夫
八尾青年会議所	川野 昇
八尾市商店会連合会	大野 春男
八尾小売市場連合会	日高 義一
布施労基協会八尾支部	高木 金一
八尾市貿易振興会	西村 末吉
八尾ゴルフクラブ	寺坂 登



卸 売 市 場

農 業

当地は昔から河内地方の農業中心地として栄えて来ましたが、最近の都市圏の膨張、拡大により耕地は年々潰されてゆき、年間約45haが工場敷地や宅地に変換されています。当市の現在の耕地面積は1,179haで、農家一世帯当たりの平均耕作面積は35アールとなり、非常に零細な経営が行なわれています。

しかし、このような状況にあっても各地区ではそれぞれの特性を発揮した農業が営なまれています。

即ち、市の西部、大阪市と接する久宝寺地区では高度の技術と資本を導入して促成園芸による西洋そ菜の栽培が、また大正から志紀地区にかけては大阪一寸蚕豆が、恩智を中心とする南高安地区では苺、市の東北部高安山、神立、大窪地区では花や観葉植物の栽培が行われています。柏原市との隣接地区ではブドウも栽培されています。また市の東部には生駒山脈が南北に走っていますが標高488mの高安山を中心とする山林面積560haの植林が行われています。

また、年々零細化する耕地を高度に利用していくためには、近代的な経営

を取り入れ、体質改善につとめなければなりませんが、各地区では農事研究会や4Hクラブなどが開かれ、新しい技術の修得や適地適作による生長作物の特産化や多角的経営などの研究につとめています。また、一方では共同出荷団体の育成による販売ルートの合理化を図り農業収益率の向上に努力しています。



い ち ご 品 評 会

農 業 団 体

八尾農業協同組合	森岡安次郎
竜華	小沢順
久宝寺	木村伝兵衛
大正	森本善造
三野郷	西岡権次郎
高安	川中裕三郎
北高安	松本栄太郎
南高安	浅井繁三

草 告 白

農業は、農民生活の命脈である。農業生産は、耕種、施肥、灌漑、除草、病害虫防除等の複数の操作によって行われる。これらの操作は、農業生産の効率化と生産性向上に直接関連する。そこで、農業生産の効率化と生産性向上を目的とした技術開発が進められており、その一つとして、農業機械化が挙げられる。農業機械化は、農業生産の効率化と生産性向上に直接関連する。そこで、農業生産の効率化と生産性向上を目的とした技術開発が進められており、その一つとして、農業機械化が挙げられる。

曙川〃 田中潔
志紀〃 吹田米太郎
八尾市農業共済組合 西岡恵太郎
三野郷〃 川田文次郎

耕地面積と農家数

耕地面積	
田	1,030.2ha
畠	142.7ha
樹園地	5.8ha
計	1,178.7ha

専兼別農家数

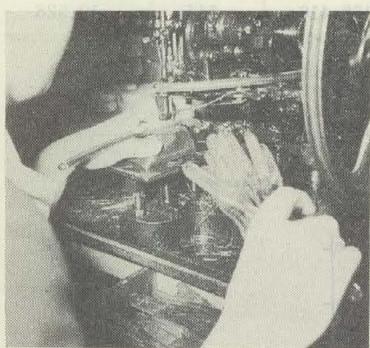
専業	844
第1種兼業	981
第2種兼業	1,562
農家総数	3,387

キャベツの品評会



特産

ブラシ 農家の副業として発達してきたブラシ工業は、明治20年頃から始められ、いまでは、全国生産額の約5割（約2億円）を占めています。もともと家内工業で、現在でもこの形態がつづいていますが、近代的なオートメーション工場も数社でき、中小企業として従業員をおくところも多くなっています。



ハブラシの製造



花 高安山の西の麓は、花や植木の産地として有名です。花は、菊、カーネーション、シャクヤク、チューリップ、アイリス、椿、桃、アカシアなどがあり、また最近では観葉植物の栽培も盛んです。植木は、松や杉などがあり、みごとな枝ぶりを競っています。



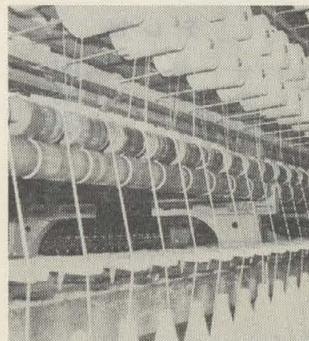
高安地区的キクјゅう



恩智いちごの採取



より糸 市の西部、亀井、竹渕地区には、より糸工業が盛んで、年間31億円余の生産をしています。製品は主に魚網用で、全国各地に流されています。最近では綿より糸ばかりでなく、ビニール製品の生産も始められています。



より糸生産工場内部

ハナオ 当市のハナオの生産は全国でもトップクラスで、年間の生産額は8千万円を越えています。ハナオは、いまから百数十年前の天保時代から、代々生業として伝ってきた家内工業ですが、最近では、ビニール製のサンダルなどに需要が変ってきておりので転業しているところが少なくありません。



西洋ソ菜 近年、食生活の改善による西洋ソ菜の需要が増えつつありますが、市の西部、大阪市と隣接する久宝寺地区では、パセリ、サラダ、レタス、紅タデ等の促成栽培が行なわれています。これら高度の資本投下と技術によって作られた西洋ソ菜は大消費地、京阪神の旺盛な需要を満たすため久宝寺促成園芸出荷組合を通じ各市場へ出荷されています。

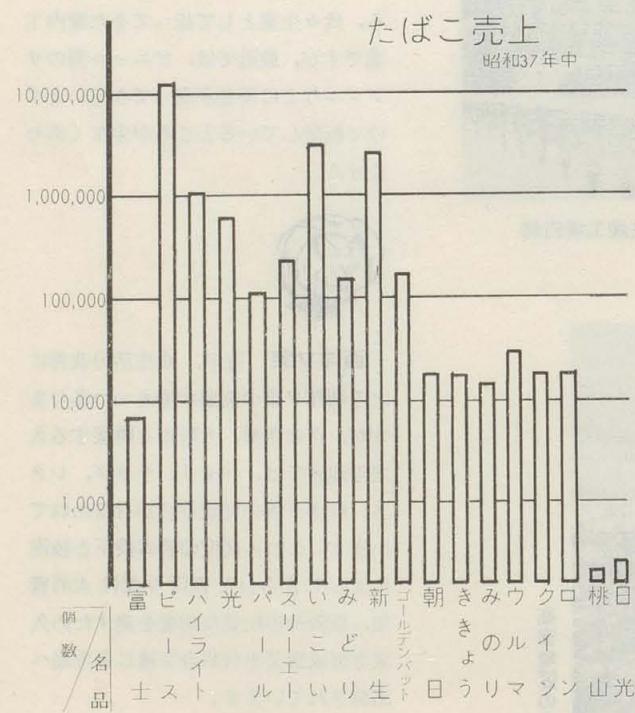
私たちの暮らし

私達の暮らし

当市は、東部に高安山の山麓地帯がつづいて、西部へ平坦部の河内平野が拡がっており、地形的にも変化に富み、自然の美しさに恵まれ、住宅地に適した地域です。

また市内の交通の便もよく、北部を近鉄大阪線が、南部を国鉄関西線が各々大阪市を起点として横断し、共に都心へは約20分の距離にあります。隣接都市にはバス路線が連絡し、各産業都市への通勤距離としても最適です。

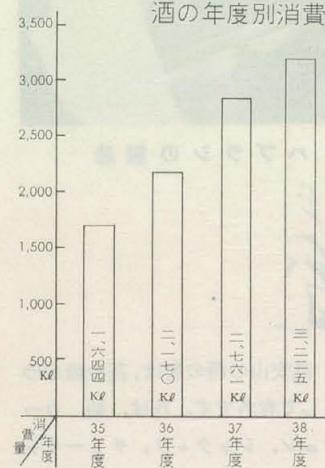
これらの自然的条件、交通事情などから、当市からの大都市大阪への通勤者は年々増加の一途をたどっていますが、住を求めて転入するものが多く、これらの人々のための住宅も増え、公営、私営による団地、分譲住宅が市内随所に建設されていて、大阪都市圏のベッドタウンとしての性格を強めています。



電灯と電力

定額電灯		街路灯		従量電灯		
口数	灯数	ラジオ 小型機器	口数	灯数	口数	灯数
971	1,314	391	3,896	4,080	30,973	286,509
大口電灯		小口電力(小)		小口電力(高)		
口数	契約KW	口数	契約KW	口数	契約KW	
666	4,045	2,258	188,410	144	19,528	
業務用電力		大口電力				
口数	契約KW	口数	契約KW			
18	935	9	7,860			

酒の年度別消費量

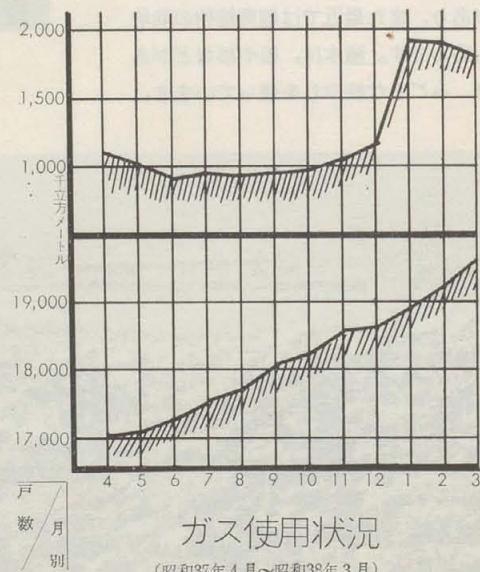


ラジオ

有料 9,064
無料 848
普及率 35.3%

テレビ

有料 20,157
無料 39
普及率 86.5%



私たちの暮らし

郵便物取扱数 (自37.4.1~至38.3.31)		
	引 受	配 達
普通通常	7,729,593	10,586,321
書留通常	67,442	172,250
普通速達	158,200	195,820
小 包	41,536	99,359

簡易保険	
38年3月末現在	
契約件数	44,407件
掛金年額	2,686,089円
年金額	676,331円

郵便貯金 (金額の単位 万円)					
区分	新規預		預 入		払 出
	入員	口数	金額	口数	金額
年度	人	口	口	口	金額
37年	582	27,583	226,23	16,448	247,44

郵便為替 (金額の単位 万円)					
区分	内 国 为 替		外 国 为 替		振 出
	口数	金額	口数	金額	
年度	口数	金額	口数	金額	口数 金額
37年	1,645	2,611	1,975	4,029	30 25

電信振替貯金 (金融の単位 万円)			
区分	払 入 口 数		払 入 金 額
	口数	金額	
年度	10,436		20,778

地区別住宅事情

地 区	住戸数	世帯数	一世帯当りの人員	1人当たりの畠数
八 尾	2,083	2,088	3.8	4.1
竜 華	820	834	4.2	3.9
久宝寺	577	588	4.2	4.5
西 郡	384	372	3.5	3.0
大 正	300	303	4.4	4.1
山 本	1,291	1,223	4.0	5.0
竹 渕	516	523	4.6	3.4
南高安	357	352	4.5	4.5
高 安	360	348	4.8	4.6
曙 川	221	221	4.4	4.2
志 紀	702	704	4.5	3.9
計	7,611	7,556	4.3	4.2

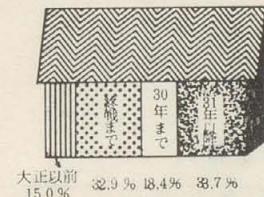
38年10月の住宅調査による

住宅事情

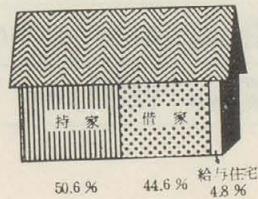
38年10月の住宅調査によれば、市内の住宅の所有関係と建築時期の割合は図のとおりです。



所有関係の割合



建築時期の割合



教のさく

育



市の教育施設は、高等学校1、中学校9、小学校16、幼稚園13があり、他には府立高等学校が2校、私立の幼稚園4あります。昭和37年度の教育費は385,356,000円と前年度よりも45.7%の増額をみており、一般会計のうち42%になっています。昭和37年2月に焼失した桂小学校が昭和38年8月に竣工したのをはじめ各学校の増改築を行なうとともに特に質的向上を図ることを第1として理科、音楽などの特別科目の充実のため小中学校7校に特別教室を建てる同時に、その設備の充実をはかっています。また、市の奨学金制度も充実し、40人の高校生が奨学金を受けています。

高等学校

区分 学校名	所在地	校長名	創立年月
清友高校	柏村169の3	吉持 博	S 16.3.10
大阪府立八尾高等学校	安中302	田中喜久三	M 28.2.21
大阪府立山本高等学校	山本町北1の35	有光 募	S 2.3.28

小学校

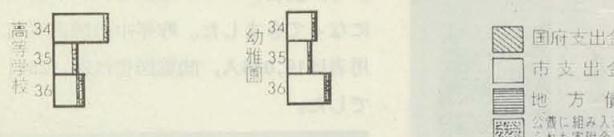
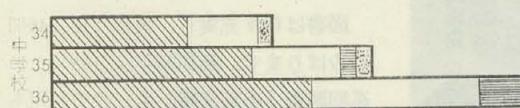
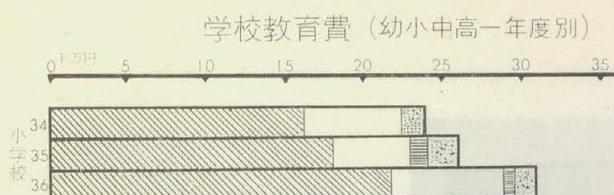
区分 学校名	所在地	校長名	創立年月	学級数	児童生徒数	教員数
八尾小学校	八尾市本町1-100	西川 啓三	M 5.9.1	38	1,723	43
山本〃	山本町北2-25	樋元 喜正	M 5.9.1	22	948	26
用和〃	山城町3-75	藤井恒次郎	M 6.6.6	26	1,090	31
久宝寺〃	久宝寺2,271	高橋 由市	M 6.12.1	21	823	26
竜華〃	植松145	高田 二郎	M 40.4.1	27	1,161	33
大正〃	太田137	和田 豊雄	T 11.6.10	17	714	22
桂〃	桂町2-33	朝日正一郎	M 7.11.1	17	580	21
安中〃	植松1,560	宇埜 晃	S 24.3.1	14	555	16
竹渕〃	竹渕115	藤沢 鈴彦	S 24.10.1	20	838	24
南高安〃	恩智1,016	磯上 隆	M 26.7.15	18	746	21
中高安〃	服部川191	小田 浩之	M 5.9.5	12	454	15
北高安〃	水越150	矢井田憲雄	M 6.10.5	13	340	17
曙川〃	八尾木787	小都 稔	M 6.6.6	6	246	9
北山本〃	山本町北7-2	小西 実音	S 31.4.1	6	168	9
南山本〃	今井317	山本 鉄三	S 32.4.1	18	695	21
志紀〃	田井中33	益田 勉	M 7.9.5	35	1,529	38
合計					310	12,610
						372

中学校

八尾中学校	緑ヶ丘1-17	清水 良一	S 22.4.1	34	1,448	54
久宝寺〃	久宝寺2050	角 藤市	S 22.4.1	14	648	24
竜華〃	太子堂248	後藤 重郎	S 22.4.1	32	1,411	46
大正〃	木ノ本264の4	隅田 三郎	S 22.4.1	11	504	21
成法〃	清水町2-14	東尾 和夫	S 28.5.1	36	1,650	54
南高安〃	恩智677	岡田哲之介	S 22.4.22	11	484	21
高安〃	水越181	岸本 忠信	S 22.4.1	14	610	24
曙川〃	今井329	三宅 常市	S 22.4.1	11	532	19
志紀〃	弓削662	皆見 皓三	S 22.4.22	18	839	28
合計					181	8,126
						291

幼稚園

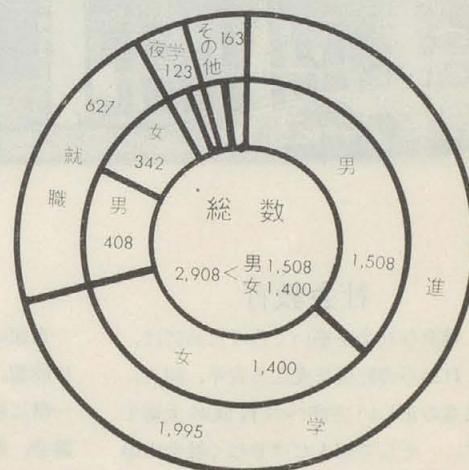
八尾幼稚園	本町1-100	向井ツルエ	T 14.7.1	5	244	7
山本〃	山本町1-146	樋元 喜正	S 13.5.2	2	114	2
用和〃	山城町3-75	藤井恒次郎	S 23.6.1	4	172	4
久宝寺〃	久宝寺2050	高橋 由市	S 22.6.1	3	123	3
竜華〃	太子堂237	高田 二郎	S 19.6.1	6	265	5
大正〃	太田137	和田 豊雄	S 25.4.10	2	83	2
南高安〃	恩智1016	磯上 隆	S 19.5.10	2	69	3
中高安〃	服部川191	小田 浩之	S 29.5.1	2	89	2
北高安〃	大竹768	矢井田憲雄	S 29.5.1	2	61	2
志紀〃	弓削797	吉内 忠治	S 26.2.6	5	230	6
三和分園	教興寺263	磯上 隆	S 30.6.1	1	31	1
万願寺分園	万願寺437	小田 浩之	S 29.5.1	1	34	1
老原分園	老原560の4	吉内 忠治	S 33.4.1	1	31	1
合計					1546	39



教育予算の推移

教育予算この数年の経緯は、経常経費については、教材備品の充実によるPTA負担軽減（特に理科教材備品の充実）、社会教育の育成充実（青少年対策、各学級講座の向上、各種団体の育成など）、不就学児童生徒の奨励対策、教職員研究による質の向上（一般研修、理科研修、産業教育研修、特

殊教育研究、教育研究指定校）などの経費に重点をおいて運用を図ってきました。投資的経費については、児童生徒の急増対策として普通教室と特別教室の増改築、学校プールの建設、体育館の建設など積極的な予算の編成執行を図ってきました。



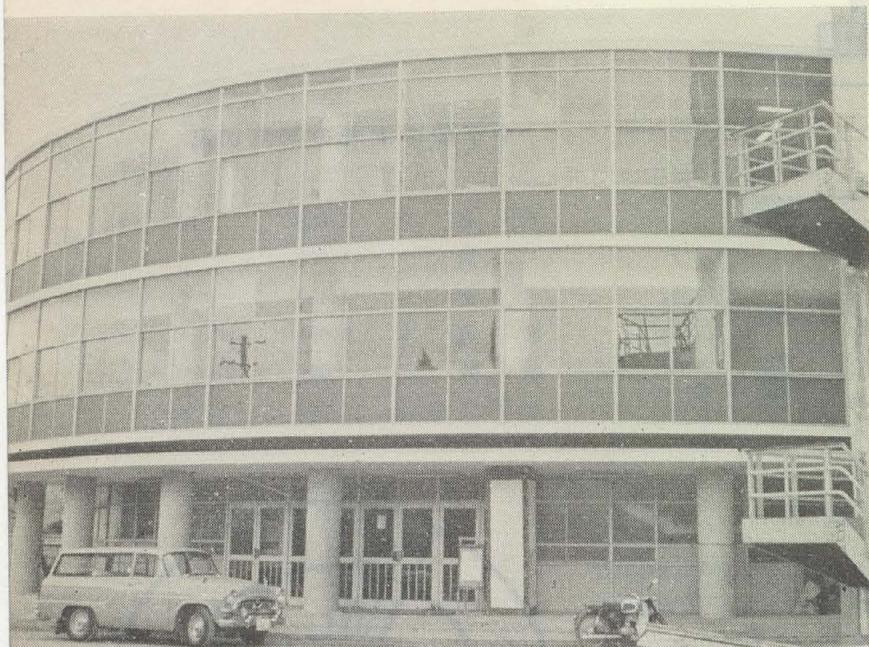
教育費項目別調

(単位千円)

年 度	一般会計 決算額	教育費 決算額	教 育 費 内 訳											
			教育委員会費	小学校費	中学校費	高等學校費	幼稚園費	教育振興費	学校保健費	就学援助費	学力調査費	社会教育費	教育事業費	
29	352,859	99,788	11,338	9,679	5,856		7,436	1,421	167	600		3,752	59,539	
30	419,969	56,238	7,622	14,524	7,400		10,076	3,074	25	1,230		3,611	8,676	
31	491,468	97,847	8,344	18,365	9,916	3,807	10,752	1,044	41	1,380		4,005	40,193	
32	623,092	152,663	9,890	20,134	11,944	7,074	14,226	1,154	43	1,703		4,617	81,878	
33	715,785	141,444	11,583	20,687	11,398	8,847	15,428	2,898	172	2,006		5,108	63,317	
34	769,718	180,034	13,896	27,577	14,036	10,616	17,338	2,912	420	2,514		5,559	85,166	
35	840,849	188,753	15,943	32,907	15,804	13,394	20,305	3,692	776	2,673		4,208	79,051	
36	1,162,358	264,410	18,844	37,380	20,745	16,297	23,066	5,119	1,296	4,929	184	4,538	131,412	
37	1,596,198	385,316	25,249	53,483	27,167	19,306	28,074	6,009	1,275	12,416	245	5,178	206,914	

(37年度は現計予算額)

教 育



市民ホール

社会教育

健全な社会を築いて行くためには、これからの中年を支える青年、婦人、児童の正しい方向への育成が大切です。そして個人だけでなく社会の中での青少年や婦人の問題、地域や因襲の問題などに真剣にとり組んでゆかねばなりません。社会教育課は、このため、青年学級、婦人学級、野外活動、子供会、保健体育、同和事業などを通じてその育成と指導をあずかっていますが、今後社会構造の変化に伴って、ますます多忙となります。

連合子供会



公 民 館

市民の文化センターとして昭和25年に開館、同33年には現在の円型ホール一階に移して、各種講座、研究会、討論会、展示会など、市民文化の育成に努めています。このほか、視聴覚教育や図書館の整備、さらには館外活動も活発です。

分館は7地区におき、それぞれ図書室を設け地域文化活動の中心となっています。

市民ホール

府下でも珍らしいこの円型ホールは、昭和33年6月、工費2,500万円で建てられました。客席は850あり、35台映写機2台を備え、集会、講演会、

催物などに利用されています。昨年の使用回数は154、利用者の数は8万6千人を越えました。

図 書 室

図書は年々充実し、蔵書は12,346冊にのぼります。昭和35年から始めた、巡回図書「小鳥文庫」も好評で利用も多く、読書グループの話し合いが活発になってきました。昨年中の図書室利用者は19,046人、閲覧図書は26,125冊でした。



図書館

図書の種別と蔵書数

種 別	冊 数
総 記	2,022
哲 学	193
歴 史	852
社会科学	1,623
自然科学	757
工 学	237
産 業	316
芸 術	1,104
語 学	176
文 学	5,466
小鳥文庫	870
計	13,756

社会教育関係団体

八尾市連合青年団	辻田常三郎
P. T. A連絡協議会	中村平三郎
婦人団体連絡協議会	角田 静子
青少年問題協議会	大橋 清治
野外活動協会	角倉 俊一
体育連盟	伊藤 勝治

成人学級

公民館活動のうち重要なものの一つで、毎年前後期にわけ14科目の講座が行なわれています。受講者は1万2千4百人あり、通信教育も昨年から始められました。現在の講座科目は書道、絵画、手芸、文学、社会科学、英会話、料理、明るい家庭設計、日土工作、写真、合唱、詩吟、習字（通信）短歌などです。

なお、このほかにも、夏期市民教養講座も開かれます。



母親大学の表彰式

講座と利用者

（講座名） （参加延人員）

書道（かな）	410
書道（漢字）	352
写真	320
手芸	1,275
詩吟	504
絵画	640
英会話	1,092
 短期講座	
文学	172
精神衛生講座	180

料理講座

家庭の婦人だけでなく、勤労婦人にも好評をえている料理講座は、1昨年新築された労働会館内の料理教室で行なわれています。受講者は前後期とも144人、3クラスにわけて行なわれていますが、申込者は3倍の盛況です。



①



②



③



④

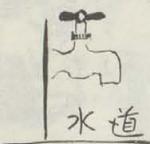
①キャンプ風景

②小鳥文庫

③料理講座

④婦人学級

水道のしごと



市の水道事業は、共同井戸から竹管で給水したり、組合簡易水道などを設けて井戸水を配給していた時代を通じ、八尾町と竜華町の上水道が開設されてから今年で25周年を迎えます。

市は、その発足以来、住宅都市、工業都市として目ざましい発展をとげてきましたが、年々給水量も激増しており、水道事業は内容の整備と充実を計って行かなければならぬ段階にきています。現在の水道給水施設は、すでに市の発展に応えて十分な水を給水できませんので、昭和38年4月から第三回拡張工事に着工、総工費15億円で6ヵ年の継続事業をすゝめています。

事業会計 (37年度決算)

収益的収入		
水道事業収益	217,413,670	(円)
営業収益	211,243,684	
営業外収益	6,169,986	
収益的支出		
水道事業費用	200,515,433	
営業費用	182,462,088	
営業外費用	18,053,345	
期間外費用	398,500	
資本的収入		
企業債	0	
固定資産売却代金	835,616	
工事負担金	0	
他会計から繰入金	20,000,000	
急設配水管工業受入金	2,364,648	
資本的支出		
建設改良費	54,438,602	
企業債償還金	41,338,486	
	13,100,116	

各水源池の配水量 (37年度中)

水 源 地	年間配水量 (m^3)	一日平均洒水量 (m^3)
八尾水源池	4,633,402	12,694
竜華水源池	2,630,040	7,206
南高安水源池	445,170	1,220
高安水源池	386,798	1,059
志紀水源池	404,705	1,108
曙川受水場	144,570	396
竹渕受水場	256,905	704
久宝寺受水場	967,040	2,649
計	9,868,630	27,036

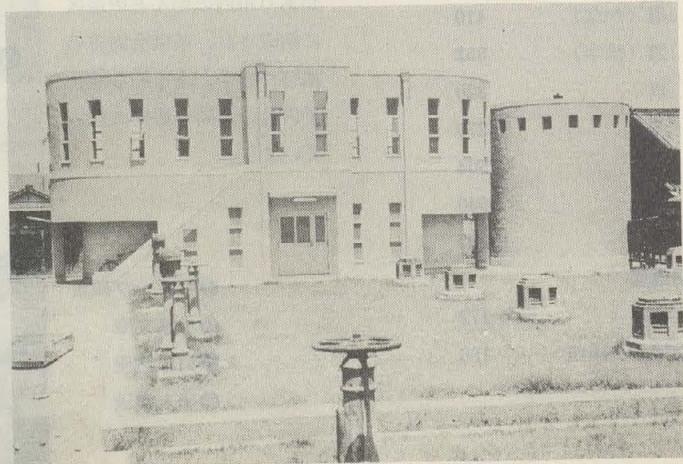
年間使用水量

(カッコ内は1ヵ月平均)

用途	家事専用	官公署用	会場用	浴場用	ブール用	臨時用
基本水量	3,941,485 m^3 (328,457)					
家事共用	87,492	(7,284)				
官公署用	293,57	2(24,464)				
営業用	2,134,778	(177,898)				
浴場用	427,251	(35,604)				
臨時用	98,799	(8,233)				
計	6,983,287	(581,940)				

水道料金

用途	八立方法	八立方法	八立方法	三百立方メートル	千立方メートル	一立方メートル
基本料金	一七〇円	一七〇円	一七〇円	四千八〇〇円	一万六千円	四千円
超過料金	二六円	二六円	二六円	二六円	二六円	二六円
超過金(一立方メートル)						



上水道